

# Editor's Choice

今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月はユニークなインターネット上の通信カラオケシステム「/SLASH」と、NECの外付けターミナルアダプター「Aterm IT45 DSU」、同じくNECのISDN用PCカード「Aterm IC20」、そしてキャプチャー機能付きカメラの「カラーキューカム」を紹介する。「/SLASH」は新曲がインターネットを利用してすぐにダウンロードできるという今までにない新しいシステムとして注目される。「Aterm IT45 DSU」は他のターミナルアダプターを接続できたり、ステルスコールバックや停電防止機能などとにかく多機能だ。一方、「Aterm IC20」はAtermシリーズでは初のISDN用PCカード。親切な設定ソフトなどが付属する点は外付けのAtermシリーズゆずりで、セットアップも簡単にできる。さらにいよいよカラー版のキューカムが登場した。エンハンスドCU-SeeMeと組み合わせてカラーでCU-SeeMeを楽しもう。

## 今月のラインナップ

インターネットを使った初のカラオケサービス

### /SLASH

[発売元：住友商事株式会社]



DSU付きの多機能ターミナルアダプター

### Aterm IT45 DSU

[発売元：日本電気株式会社]



定評あるAtermシリーズのPCMCIAカード版

### Aterm IC20

[発売元：日本電気株式会社]



キャプチャー機能付きビデオカメラの定番がカラーに対応

### Color QCAM for Macintosh

[発売元：株式会社誠和システムズ]



付録のCD-ROMに収録

## このコーナーの見方



市販のハードウェア製品



市販のソフトウェア製品



シェアウェアのソフトウェア



フリーウェアのソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先



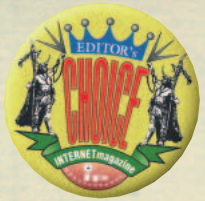
付属品



ファイルサイズ  
最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。





## インターネットを使った初のカラオケサービス

スラッシュ

# /SLASH

### ここがスゴイ!

- ① インターネットを使った初めてのカラオケサービス
- ② 一度曲データを受信すると3か月間は何回でも再生可能
- ③ リクエストを受け付け、毎月100曲が追加される

インターネットを使ったカラオケのサービスが6月から開始された。インターネット上での商用サービスが続々登場するなか、ようやく日本の代表的な娯楽であるカラオケもインターネットに対応する。ソフトウェアもハードウェアもある程度整った環境があれば、インターネットを利用して最新の曲データが利用できるという注目のサービスだ。

#### ▶ 最新の曲データをインターネットで受信

カラオケと言えば、今やもっとも普及しているのが「通信カラオケ」。カラオケルームなどのお店で使用されるシステムはもとより、家庭向けの通信カラオケのセットさえ販売されているほどだ。この通信カラオケの一番の良さは、なんといっても全国どこでも新しい曲がすぐに利用できることだ。CDやレーザーディスクを使って曲データが一定期間にまとめて提供されると違い、最新の曲はすぐにオンラインで配給される。

通信カラオケに似たシステムをインターネットとパソコンで実現したのが6月からサービスが始まった「/SLASH」という住友商事の有料サービスだ。

#### ▶ CD-ROMとインターネットとを併用

利用するうえで必要なものは、インターネットに接続するための回線やモデムなどの機器はもちろん、MIDI規格の音楽データを再生することが可能なハードウェア、そしてパソコンはCD-ROMドライブを搭載していることが条件となる。そして、「/SLASH」を利用するために、専用のソフトウェアとサービスを利用する際のキーコードが含まれているCD-ROMを購入する必要がある。CD-ROMの販売価格は6,000円だ。内訳はソフトウェアが2,000円、利用権となるキーコードが4,000円となっている。現在はインターネットでのオンライン販売 (<http://www.clubweb.or.jp/slash/>) のみだが、書店やコンビニエンスストアなどで販売することも検討中という。

CD-ROMにあるソフトウェアをインストールすると、曲データ再生用のソフトのほか、サンプルの曲データ、ネットスケープに対応したプラグインソフトも組み込まれる。ソフトを起動して、曲リストを選択すると、あらかじめCDに添付された3曲分の曲目の一覧が表示され、好みの曲を指定すると再生が始まる。再生中は、歌詞のほか、曲に関連した画像データ(静止画)が一定間隔で表示される。この画像データはすべてCD-ROMに収められているので、曲データの再生には必ず



① 曲の進行に合わせて歌詞の色が変わる。普通のカラオケとまったく同じだ

このCD-ROMが必要になる。

「/SLASH」はCD-ROMを買っただけではこれ以上楽しめない。インターネットで曲をダウンロードして使うことが前提になっている。CD-ROMを購入すると1年間に300曲までを自由に受信できる使用権が含まれ、CD-ROMのパッケージには専用キーコードが印刷されている。曲をダウンロードするには住友商事の運営しているWWWサーバー「ClubWeb」(<http://www.clubweb.or.jp/slash/>) にアクセスし、まず会員登録を行う。これは誰でも無料で利用できる。そして、「/SLASH」のコーナーにアクセスし、データを受信する際にClubWebの会員番号を入力し、さらに一度だけ専用キーコードを入力するよう要求される。一度入力すれば、あとはClubWebの会員番号だけを入力すればすぐにダウンロードが可能となる。

#### ▶ リクエストも受け付け、毎月100曲が追加される

曲のデータ量は非常に小さいので受信はすぐに完了する。5分間くらいの曲で50Kバイトから60Kバイトほどなので、回線の状況がよければ28,800bpsのモデムでダウンロードに10秒もかからない。ネットスケープを使っている場合にはプラグインソフトによってあらかじめ決められた所定のフォルダに保存してくれる。

保存された曲データは自動的に再生用の専用ソフトが認識するため、あとは「/SLASH」のホームページに表示される曲リストの中から好きな曲を選択して再生することができる。

サービスのスタート時は受信可能な曲データが約1,000曲用意され、リクエストも受け付けながら毎月100曲を追加していくという。最新のヒット曲もこれでカバーしていくそう。なお一度受信した曲データは受信後3か月間は何度でもインターネットにつながずに再生できる。1年間を過ぎるか、300曲分の受信が終わった段階で新たにアクセス権(4,000円)のみを買うことになる。

現在は国内だけのサービスだが、国際的な著作権の処理がクリアされれば、アジアを中心とした海外展開も行う予定にしているという。今後の展開が注目される新サービスだ。(石橋文健)

6,000円(1年間300曲分の使用権込み)

住友商事株式会社



② 曲の選択画面。シンプルで分かりやすい



③ スラッシュのホームページで曲を選べる

## /SLASH

Ver:1.0

住友商事株式会社

03-3296-7329 / SLASH担当宛 (FAX)

6,000円(使用権付き、発売記念特価)

<http://www.clubweb.or.jp/slash/>





¥ 64,800円

日本電気株式会社



## DSU付きの多機能ターミナルアダプター

エーテーム アイティー

# Aterm IT 45DSU

### ここがスゴイ!

- ① DSU内蔵でコストパフォーマンスが高い
- ② アナログポートが2つ
- ③ 分かりやすい設定ソフトが付属

昨年末にNTT-TEが「NM128」を発売してから、ISDNのターミナルアダプター(TA)は低価格路線に入った。その中で、身軽なフットワークを見せたのがNECのAtermシリーズである。3月にはMN128対抗機種ともいえる「Aterm IT45」を発表、「同期・非同期変換PPP」機能、2チャンネルのアナログポートなどMN128と同等の機能をそなえ、そのうえに、乾電池による停電対策を盛り込んで49,800円とMN128の39,800円(NTT-TEの実売価格)に迫る値段を付けた。MN128の品不足で、このTAを購入したユーザーも多いことと思う。今回取り上げるのは、さらにDSUを内蔵した「Aterm IT45 DSU」である。

#### ▶ DSU内蔵でコストパフォーマンスが高い

ISDNを利用するためには、DSUとTAが必要である。DSU自体はNTTからも購入(レンタルも可)でき、価格は23,900円だ。3月に発売されたAterm IT 45は49,800円。NTTからDSUを購入するとTAと合わせて合計73,700円になってしまうが、Aterm IT 45DSUならばTAとDSUが入って64,800円と8,900円安くなる。また、DSUの取り付け工事費も不要である。

◎筐体はAterm IT45よりひと回り大きくなった

#### ▶ DSU内蔵型の欠点を補強

DSU一体型には、「TAを別の機種に替えるときにDSUが別途必要になる」、「別のTAをつなぐことができない」といった欠点が指摘されているが、この45DSUでは、オプションの「S点ユニット」を使うことで、こうした欠点をなくすることができる。S点とは、DSUとTAの間の接続点(正確にはS/T点)をいい、このユニットを45DSUに装着することで、さらに2つのTA(モジュラーローゼットを使ってバス配線にすれば2台以上)を接続できるのである。

これで、45DSUのTA部分を使わなくても、DSU部分をほかのTAから使うこともできるし、外部の

DSUを使って45DSUを接続することも可能になる。そういうわけで、DSU内蔵タイプの問題もなくなっている。

#### ▶ ユニークな極性反転スイッチ

また、45DSUには、極性反転スイッチが付いている。モジュラーコネクターまでの屋内の配線には2芯の線が使われているが、極性が反転していることがある。普通の電話ではまったく問題がないが、ISDNでは致命的な問題である。NTTにDSUの取り付けの工事を依頼していればこれを含めて直してもらえる。しかし、DSUを自分で取り付ける場合には極性を正しくする工事をしてもらう機会がなくなる。壁に埋め込まれたモジュラージャックの工事するには資格が必要で、無資格者がモジュラージャックのコネクターを外して線を入れ換えるなどということとはできない。どうするかというと、その極性が反対になったモジュラーケーブルを用意して、DSUと壁のモジュラージャックにつなぐしかないのだが、これも用意するのは結構めんどうである。45DSUでは、背面のスイッチを切り替えるだけでよい。

余談であるが、一部の市販モジュラーケーブルでも極性が反転しているものがあるというので、長いケーブルなどを自分で用意する場合には注意したほうがいいだろう。DSU部以外のTA部分については、従来機種であるAterm IT45と仕様はほぼ同一で、唯一の違いは、2つのアナログポート間での「内線通話」と「内線転送」機能である。

#### ▶ アナログポートが2つ

一般家庭でISDNに切り替える場合には、従来の電話機をつなぐためのアナログポートが必須である。これがないと、普通の電話を使うことができなくなってしまうからだ。また、ISDNのメリットの1つは、同時に2回線で通話できることである。アナログポートの1つには通常の電話をつなぎ、もう1つにはFAXをつなぎたいところだ。そう考えるとアナログポートは、最低でも2つ欲しくなる。45DSUは、2つのアナログポートがある。また「グローバル着信拒否」という機能がある。

通常、ダイヤルインを2つ設定すると基本料金に加えて月額1,800円が必要だが、月額料金900円で2回線を使い分ける方法がある。1つの回線にダイヤルインで2つの電話番号を設定すると、NTTの局から来る電話の呼び出し信号に、どちらの電話番号にきた電話かを判別するための「電話番号情報」が付加される。電話





番号情報を1つ付加することに月額900円余分にかかるので、2つの電話番号を使うと月額1,800円が余分にかかるのである。

しかし、もともとある電話番号を「グローバル着信(電話番号情報なし)」にすると設定し、その上でダイヤルインを1つ契約すれば、付加する電話番号情報はダイヤルインの番号への通話の場合だけでよく、月額料金は基本料金に加えて900円しか余分にかからない。この設定で2つの番号を使い分けるには、1つのアナログポートに「電話番号情報なしの場合にはつながらない(グローバル着信拒否)」という設定ができなければならない。この機能を持っているAterm IT45 DSUなら、月々の支払いが安く済むというわけだ。

#### ▶ 同期・非同期変換PPP機能を搭載

もう1つのメリットは、非同期通信と、同期通信の自動変換である。ISDNによるプロバイダーとの接続には、非同期38.4Kbps(一部56.7Kbps)と同期64Kbpsの2種類がある。Atermシリーズは、PPP接続の場合、パソコン側は非同期のやり方で接続して、TA内部で同期PPPに変換するという機能を持っている。このため、同期64Kbpsのプロバイダーに接続することが可能になっている。

### 試用レポート

#### ▶ 分かりやすい設定ソフトで簡単操作

前述のアナログポートの設定など、TAの設定はけっこう面倒なものである。なぜなら、すべての設定をATコマンドで行う必要があるからだ。プロバイダーに接続するときの設定だけであれば、パソコン側で一度設定すればいいし、また、設定も解説付きで行える(たとえばウィンドウズ95のモデム設定など)。しかし、アナログポートの設定などは、通常であれば、マニュアルで必要なコマンドを調べて、ターミナルソフトなどから送らなければならない。

45DSUには、「IT45らくらくユーティリティ」と呼ばれるソフトが付属しており、これらの設定が簡単にできるようになっていて、ユーザーは、ATコマンドなどを調べる必要がない。これはけっこう便利である。このソフト自体はひんばんにバージョンアップされているようで、筆者が手に入れたAterm IT45ではバージョン1.1だったが、この45DSUに付属のソフトは、バージョン1.3になっていた。ソフト自体はAtermシリーズのホームページに最新のものが置かれているので、常に最新のものが入手可能だ。

実際に同期64Kbpsをサポートする「So-net」と非同期38.4Kbpsをサポートする「Bekkoame」の2つの

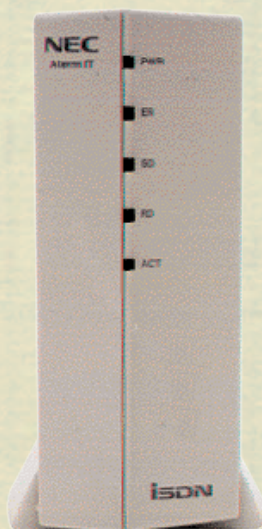
プロバイダーにアクセスしてみた。ウィンドウズ95のダイヤルアップネットワークを使って、設定、接続ともスムーズにできた。

ISDNはダイヤルから接続までの速度が速く、スタートさせて10秒ほどで接続が完了する。データ転送が高速なため、あたかもローカルのネットワークにアクセスしているかのような感じである。「So-net」で3Mバイト弱のファイルを国内のFTPサーバーから転送したが、所用時間は8分弱。ウィンドウズ95のシステムモニターで見ると、シリアルポートのところで、瞬間的にはあるが1秒間に8Kバイト以上の速度が出ていた。FTPでも1秒間に6~7Kバイトは出ており、大きなファイルの転送にならストレスを感じない。「Bekkoame」のほうは、ユーザー認証に時間がかかって接続するのに30秒程度、一度接続すると途中で切れることなくアクセスができ、同じプロバイダーかと思うぐらいである。

#### ▶ とにかく多機能なTA

Aterm IT45 DSUは、DSUを内蔵しているぶんだけコスト的に安く、機能的にも十分なものを持っている。筆者の手に入れたAterm IT45も実売価格で4万円を切っていたので、たぶん、45DSUとNTT-TEのMN128(オープンブライスの)DSU付きのセットも同程度の価格になると思われ、どちらを選ぶかというところか。難を言えば、2回線分を同時に使って128Kbpsの通信ができるバレル接続への対応(MN128は可能になったようだが)である。まだ一部のプロバイダーのみが対応しているだけなので、自分の契約しているプロバイダーが対応していなければ関係のない機能であるが、ROM交換などでできるものなら対応してほしいところだ。

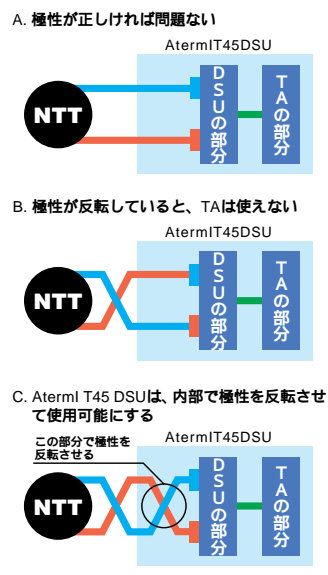
ただ、メーカーが日本のパソコンシェアトップのNECでもあり、サービスセンターの数など安心材料も多い。これからISDNを引こうと考えているなら、検討する価値はあると思う。(塩田紳二)



① 正面に並ぶインジケータはAterm IT45のデザインを踏襲している



② 裏から見たところ。上からアース、電源スイッチ、シリアルコネクタ、ISDNポート、アナログポートが2つ。左上のカバーを開けてS点ユニットを装着する



#### AtermIT45DSU

- 日本電気株式会社
- 0120-361138 (パーソナルコミュニケーションインフォメーションセンター)
- 64,800円
- ISDN回線用モジュラーケーブル、RS-232Cケーブル、D-SUB9ピン変換コネクタ、縦置きスタンド、ユーティリティソフト、モデム定義ソフト、PC-VANウェルカムキット、meshウェルカムキット
- <http://www1.meshnet.or.jp/aterm/>





## 定評あるAtermシリーズのPCMCIAカード版

エーターム アイシー

# Aterm IC20



49,800円



日本電気株式会社



### ここがスゴイ!

- ① 同期・非同期のドライバーを同時にインストールできる
- ② 親切な設定ソフトが添付
- ③ セットアップが簡単

NECのAtermシリーズといえば外付けのISDN用ターミナルアダプターの中では大変な人気を呼んでいる製品だ。秋葉原でも品薄の状態になることが多い人気機種である。そのAtermシリーズのラインナップにこのほどISDN用のPCMCIAカード「Aterm IC20」が加わった。同期と非同期の両通信方式に対応した、ユニークなカードである。ステルスコールバックに対応しているため、208ページで紹介した同じNECの「Aterm IT45DSU」と組み合わせれば、家からは料金がかからない通信が実現できる。ウィンドウズ95用とウィンドウズNT3.51用の設定ファイルはもちろん、親切なユーティリティが添付されているので、初心者にも安心だ。

▶ 同期と非同期の両方を切り替えながら使うことができる

付属の設定ファイルは3種類ある。Aterm IC20をPCカードとして認識させる場合と、外付けのモデムとして認識させる場合。そして、ステルスコールバックを使用する場合だ。従来のISDN用PCカードではほとんどが同期通信しかできなかったが、Aterm IC20は非同期通信にも対応している。ただ、PCカードとして認識させる場合、インストールできるのは同期か非同期か、どちらか一方しかない。同期を使っていて、たまたま非同期の方を使いたくなった場合、いちいちドライバーをインストールし直さなくてはならない。ところが、外付けのモデムとして認識させると、同期と非同期の両方のドライバーを同時にインストールすることができ、シチュエーションによって切り替えることができる。

▶ 外付け型ターミナルアダプターと同じ使い心地

この「外付けモード」はなかなか便利だ。パソコン通信では非同期通信しかサポートしていないところがある。そのような場合、インターネットには同期通信で、パソコン通信は非同期通信でと、切り替えながら使うことができる。外付け型のターミナルアダプターと同じような使い勝手で、手軽にISDN通信を利用できる。

また、1つのプロバイダーしか利用していない人にも、たとえば同期通信が話中でつながらないように場合、すぐに非同期の回線に切り替えてつなぐこともできる。非同期の速度は57.6Kbpsに対応しているため、57.6Kbpsに対応しているパソコン通信サービスやプロバイダーなら、同期64Kbpsに速度でもほとんどひけをとらないので、快適に通信できる。

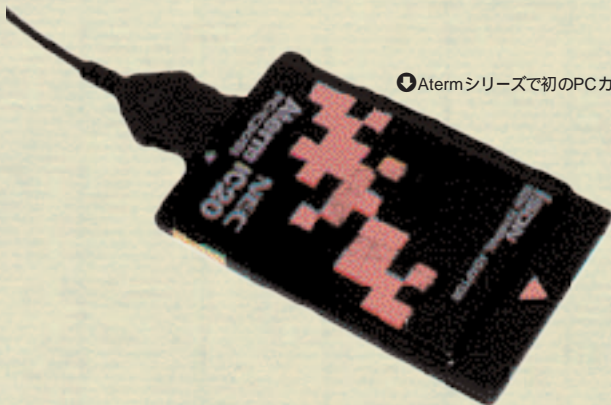
注意すべき点は、外付けモードのときは、PCカードスロットをCOMポートとして認識させるためのドライバーをモデムの設定ファイルとは別にインストールしなければならないことである。

▶ 親切な設定ソフトでATコマンドを打つ必要がない

Atermシリーズではおなじみのユーティリティソフトももちろん付属している。Aterm IC20はATコマンドで制御するタイプだが、ATコマンドといっても初心者には近寄りづらいものだ。できれば複雑なコマンドを覚えなくて済ませたいところである。そのような人でも簡単に設定できるように、Aterm IC20には分かりやすい設定ソフトが付いている。数々の機能を有効にするか無効にするかを、ユーティリティソフトのチェックボックスをチェックするだけで選択できる。サブアドレスの設定などもできるので非常に便利だ。

▶ 他のAtermシリーズと合わせてステルスコールバックが可能

Atermシリーズは「IT45」から「ステルスコールバック」という機能が付いた。通常のコールバックでは発信したらいったん電話を切り、相手から電話がかかってくるのを待つ必要があるが、ステルスコールバックを使えば相手側のTAが発信者の発する通知を検知して、回線を接続せずに相手側にかけ直す。接続しないので最初に相手にかける分の料金はかからない。それに加えて、通常のコールバックよりも接続が短時間で済む。この機能を使うのには自分側と相手側の両方がAtermシリーズを使っている必要がある。



① Atermシリーズで初のPCカード型



## 試用レポート

ゲートウェイ2000社のリパティアーでプロバイダーの「IIJ」に接続してみた。PCMCIAのスロットに差し込むだけで認識する。ドライバーを組み込むためのダイアログが表示されるので、フロッピーディスクを入れてドライブを指定すればOKだ。あとは、自分の接続方法を選べばよい。

試用では同期と非同期に、それぞれPCカードモードと外付けモードで接続した。結果は、それぞれのモードで何の問題もなく成功した。ウィンドウズのプラグアンドプレイに対応しているの、インストールは実に簡単で、すぐに使えるところが魅力である。

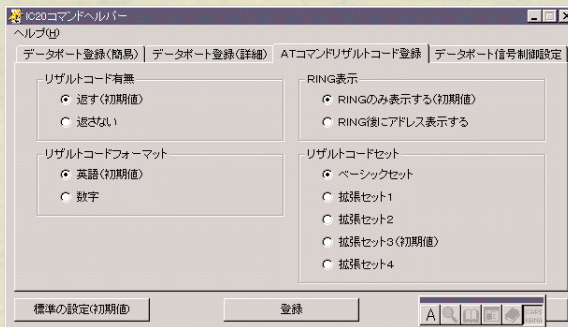
また、付属のユーティリティソフトもインストールが簡単で、通信料金などが簡単に分かるようになっており、使い勝手はいい。さらに、Aterm IC20専用のテストプログラムも入っており、ATコマンドにきちんと対応しているかどうか分かる。

1つ気になったのは、ウィンドウズ95で「モデム」のプロパティでモデムのATコマンドテストを行う機能があるが、その項目で正しいテスト結果が得られないことだ。ATコマンドを打ち込んだときにどのような応えが返ってくるかが表示されるのだが、ほとんど「ERROR」という表示が返ってきてしまう。通信はきちんとできるのだが、初心者は不安に思うのではないだろうか。NECに問い合わせたところ、この症状は現在のウィンドウズ95ではよく起こるのだそうだ。この症状が出ても、接続にはまったく関係ないとのことだ。

事実、ATコマンドによるテストはマニュアルではウィンドウズ95に標準添付の「ハイパーターミナル」で行うようにと書いてある。マニュアルに従って検出テストを行ったところ、きちんとテスト結果が表示された。

### ▶ ノートパソコンユーザーは要注目

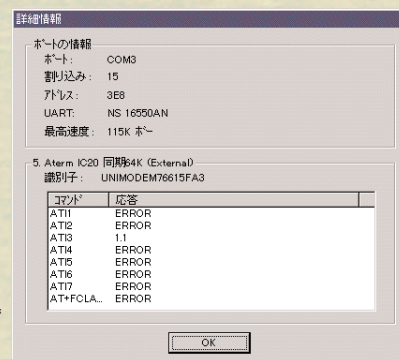
確かに簡単にインストールできるので、基本的に初心者にはやさしいと言えるが、「外付けモード」などいろいろ他のカードとは違うユニークな機能があるので、テストや複雑な機能を活用する際には、マニュアルをよく読むことをおすすめする。ISDN用公衆電話も最近ではかなりよく見かけるようになってきたので、公衆電話を中心に使うユーザーにとっては、邪魔な突起がないケーブルで快適に通信することができる。家庭でノートパソコンを利用している人や、出先でもISDNをどんどん活用したいという人にはぜひおすすめの製品である。 (編集部kataoka@impress.co.jp)



① 「IC20コマンドヘルパー」の画面。リザルトコードなどの設定が簡単にできる



② 「IC20テスト」の画面。正しく認識されているかどうかテストできる








③ 「モデムのプロパティ」で「詳細情報」を選んでも、エラーが表示されてしまう

④ コネクタの付け根は差し込む方向を間違えないように三角印が付いている



## Aterm IC20

-  日本電気株式会社
-  0120-361138 (パーソナルコミュニケーションインフォメーションセンター)
-  49,800円
-  専用ケーブル、設定ファイル、ユーティリティソフト、PC-VANウェルカムキット、Meshウェルカムキット
-  <http://www1.meshnet.or.jp/aterm/>





¥ 34,800円

株式会社誠和システムズ



④ 外観は従来のキューカムとほとんど変わらない



## キャプチャー機能付きビデオカメラの定番がカラーに対応

カラーキューカム・フォー・マッキントッシュ

# Color QCAM for Macintosh

ここがスゴイ!

- ① もっとも手軽なパソコンのカラービデオカメラ
- ② 優れたコストパフォーマンス

低価格のキャプチャー機能付きビデオカメラの定番「キューカム (QCAM)」のカラー版が販売された。マッキントッシュユーザー待望のキューカムが、ポータブルなサイズはそのままにカラー化した。24ビットカラーや、フレームレートも落とさない画像圧縮技術を採用入れ、向かうところ敵無しのコストパフォーマンスを持つスペックだ。そのほか、固定焦点から手動フォーカスへの変更による画質の向上や、画像サイズの拡大と基本機能の向上も見逃せない。

▶ サイズと使い勝手はそのままカラーに  
カラーキューカムはビリヤードのボールを2まわりほど小さくした大きさの球形のボディにカラーCCDを内蔵し、約1.8mのケーブルでマッキントッシュのシリアルポートに接続される。モノクロタイプはシリアルポートの接続だけで済んでいたが、カラー版はADBポートから電源を供給する必要がある、シリアルポートに接続する「Mini-Din8」プラグから分岐したケーブルの先に、キーボードコネクタへさし込めるT型プラグが付いている。T型の両端がキーボードコネクタの雄雌の形状になっており、マッキントッシュとキーボード、キーボードとマウスの間に接続できる。標準でADBポートを持たないパワーブック・デュオシリーズではキーボードコネクタを拡張させる周辺機器が必要だが、バッテリーを持たない手軽さは受け継がれている。

▶ 独自の画像圧縮でカラー動画もスムーズ  
最大640×480ピクセル、24ビットカラー、最高30フレーム毎秒、f/1.6、画角48°(35mmカメラの50mmレンズ相当)焦点距離は1インチから無限の手動調整と、低価格なキャプチャー機能付きカラービデオカメラとしては十分なスペックだ。もちろん速度はCPUの処理速度に大きく依存し、カラー化によって増大するデータ量に対応するため、最低でも68020以上のCPUを持つマッキントッシュが必要だ。さらに、効率を上げるため、小さな本体の中にコネクティクス社オリジナルのビデオ画像圧縮機能VIDECボードを内蔵している。これにより、ビデオキャプチャーボード並みとは言わないが、フレームレートを高く保てる。これによりシリアル接続でありながら、十分な速度がでる。

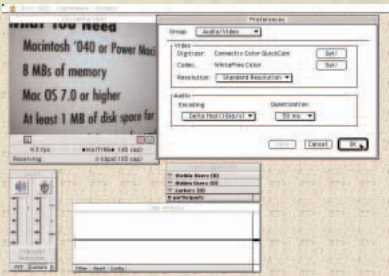
▶ ビデオ会議ソフト向けのカメラとして最適  
本体には、JPEG、PICT、TIFFの各形式の静止画をキャプチャリングするソフト「クイックピクト

(QuickPict)」、クイックタイムムービー形式の動画をキャプチャリングするソフト「クイックムービー (QuickMovie)」のバージョン2.0が添付される。本誌名物企画「CU-SeeMe大会」でもおなじみのように、キューカムと言えば、なんとと言ってもCU-SeeMeなどの個人向けのビデオ会議ソフトと切り離しては考えられない。

## 試用レポート

▶ CU-SeeMeやビデオフォンにも対応  
ホワイトバイン・ソフトウェア社のエンハンスドCU-SeeMeならカラーがサポートされ、QTC関連では、コネクティクス社が販売するQTC互換のビデオ会議ソフト「ビデオフォン (VideoPhone)」が使える。ビデオフォンならば、画面を90度回転させて縦長の画像を使うこともできる。パワーマッキントッシュを使った場合、体感ではモノクロと速度は変わらないし、映りも良く、デジタルスチルカメラのカシオ「QV-10」よりもきれいだ。ピント合わせも焦点リングでできるようになり、印刷された文字も明確に捉えられた。これにより、モノクロ画像も固定焦点のモノクロキューカムより鮮明だ。ただ、内蔵マイクがなくなり、モノクロキューカムで音のサンプリングを行っていたのなら、別にマイクを用意しておく必要がある。  
モノクロ版のキューカムを買おうと思っているのなら、ぜひカラーキューカムを見てから判断した方がいいだろう。この夏のCU-SeeMe大会ではカラーが流行するかも知れない。

(菊地宏明)



① エンハンスドCU-SeeMeの画面。コーネル大学のCU-SeeMeは、モノクロしかサポートしないので、本機を使ってもカラー表示できない。パッケージに1~2インチまで近づいてみたが、接写も焦点リングの調整で鮮明だ。さて、エンハンスドCU-SeeMeによりカラーのテレビ会議は流行するか、CU-SeeMe大会の動向に注目したい。

### Color QCAM for Macintosh

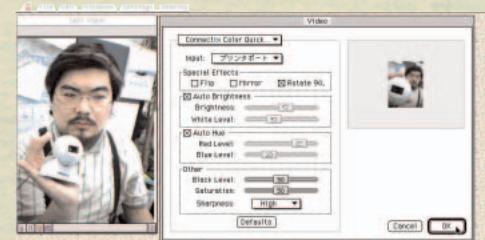
株式会社誠和システムズ

03-5352-7818

34,800円

クイックピクト、クイックムービー、クイックカード (機能限定版)

[http://www.ijinet.or.jp/Seiwa/Zeus\\_tower/Zeu\\_in/product\\_info/ccqcam.html](http://www.ijinet.or.jp/Seiwa/Zeus_tower/Zeu_in/product_info/ccqcam.html)



④ QTC対応のテレビ会議ソフト「ビデオフォン」の画面。パワーブックとならコンパクトなテレビ会議システムが構築できる。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)